

# 第9回GEOSSアジア太平洋シンポジウム開催結果について

---

平成29年6月26日  
文部科学省  
環境エネルギー課

# 第9回GEOSSアジア太平洋シンポジウム 開催概要

- 期間：平成29年1月11日(水)-13日(金) \*最終日は午前中のみ
- 場所：東京国際交流館
- 目的：アジア太平洋地域におけるGEOSSの普及及び推進に向けた情報交換の場を提供することにより、同地域における研究者コミュニティを育成し、アジア太平洋地域特有の環境問題等への共通理解を深めること。
- 主催：GEO事務局、日本
- テーマ：「アジア太平洋地域における持続可能な開発目標(SDGs)の実施を支援する地球観測  
(Earth Observations Supporting the Implementation of the SDGs in the Asia Pacific Region)」
- 参加者：日本、豪州、カンボジア、中国、フィリピン、インド、インドネシア、イスラエル、韓国、バングラデシュ、ミャンマー、マレーシア、ネパール、パキスタン、タイ、ベトナム、UAE、バヌアツ、ツバル等の26か国及び8国際機関(アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、アジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)、アジア太平洋宇宙協力機構(APSCO)他)から約240名が参加。  
\* 下線はGEO参加国



開会挨拶を行う田野瀬政務官



# 第9回GEOSSアジア太平洋シンポジウム 結果概要(1/2)

## 1. 基調講演

- 1)「アジア太平洋地域における持続可能な開発」  
サンジャースレン・オヨン世界水パートナーシップ議長
- 2)「SDGsを実現可能とする力である科学技術とイノベーション」  
岸輝雄外務省参与(外務大臣科学技術顧問)



## 2. 各国におけるGEOSS実施報告

豪、カンボジア、中国、インド、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン等10か国、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、アジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)、等4機関から地球観測データの利用状況や実施について発表があった。

## 3. グローバルイニシアティブ代表者によるパネルディスカッション

### 「SDGs等の地球規模課題と地球観測の役割」

モデレータ: 落合治(GEO事務局)

登壇者: GEOWATER、GEO BON、GEO Carbon&GHG、Blue Planet、GEOGLAM、Implementation for 2030 Agendaの代表者

議論概要: モデレータから第13回本会合においてGEOにおける優先連携分野が採択されたこと、またGEOの活動とSDGsゴールとの初期分析結果について紹介があったのち、パネリストからグローバルイニシアティブ等の概要について紹介があった。その後、①各フラグシップ、イニシアティブを進める上での地球観測や地球観測データの役割、特にステークホルダーや政策立案者からの要求に応える際の課題やデータを情報に変換する際の課題、②シンポジウム2日目及び3日目の議論を念頭においた各イニシアティブから見たSDGsに関する期待や課題等について議論が行われた。会場からは、GEO BONが取り組む生物多様性は多様なステークホルダーが存在する分野横断的課題であり、アジア地域が大きな役割を果たすべき旨コメントがあった。

## 4. 分科会

「GEOSSアジア水循環イニシアティブ」「生物多様性観測網ネットワーク」「GEO炭素・GHGイニシアティブ」、「アジア太平洋地域における海洋と社会」、「農業と食料安全保障」が開催され、我が国の研究者が分科会共同議長を務め議論を牽引した。議論結果は、「東京宣言2017」に反映された。

# 第9回GEOSSアジア太平洋シンポジウム 結果概要(2/2)

## 5. 分科会共同議長等によるパネルディスカッション

### 「アジア太平洋地域の視点からの地球観測と持続可能な開発のための2030アジェンダ」

モデレータ: 大竹 暁 (科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー)

登壇者: バーバラ・ライアン GEO事務局長、宍戸健一 国際協力機構地球環境部審議役兼次長、WG1-5共同議長

議論概要: モデレータから、①WG横断的な課題(例: 気候変動、能力強化、地上観測と衛星観測の連携等)及び②GEOの役割(例: 地球規模課題の解決とSDGsの達成のために可能な協力等)について問いかけがあった。

パネリストからは、①次回シンポジウムでWG横断的な課題の議論を行う半日程度の合同セッションを開催することや、②各国・機関毎にSDGsのゴールの優先順位が異なる点、③国際的な枠組(IPCC(TFI)、フューチャーアース等)との連携・貢献の必要性等について言及があった。

議論を踏まえ、モデレータは、GEOはSDGsの達成に向けた地球観測の良好事例を創出するとともに、政策決定者へのエビデンスの提供のための活動を促進すべきである旨総括した。最後に、ライアンGEO事務局長からは、観測データの公開・能力強化・観測の統合の重要性等について強調しつつ、地球観測には国境がなく、SDGsの達成に向けて各国・機関が実施をリードしていただきたい旨コメントがあった。

## 6. 「東京宣言2017」の採択

シンポジウムの最後に、次回シンポジウムに向けて各WGの関係者がとる行動、SDGsの実施における地球観測や開発援助機関の果たす役割やその重要性、地球観測が政策決定を支援するための衛星、海洋、現場観測の統合の重要性、地球観測データ・情報を利用した研究活動の促進や国連SDGs実施メカニズム(IATT等)との連携を提言する「東京宣言2017」を採択した。

## 7. 次回シンポジウムの開催

第10回GEOSSアジア太平洋シンポジウムは、2017年にベトナムで開催する。



閉会挨拶を行う  
ライアンGEO事務局長